

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家平岸(あじさい)		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1-2 6		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町村受理日	平成24年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく施用街を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みの家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501795&S&CD=320&PCD=01>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番地あおいビル7階		
訪問調査日	平成 24 年 7 月 30 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は法人の理念を毎朝の申し送りの場で確認し、日々の暮らしの中で実践することを心掛けケアの向上を目指して取り組んでいます。ホームは単独運営ではなく、法人本部は数カ所のグループホームを管理運営しています。法人はグループホームの設置理念を正しく認識し、理念に基づいた職員研修や月一度の管理者合同会議を開催し、情報の共有とより良いケアの向上を求めて研鑽努力をしています。職員の連携は良好で、ユニットのみでなく、3ユニットが相互に協力をし利用者本位に暮らしを構成しています。地域との関わりも信頼関係が構築し、花火大会や子供みこしなど、利用者との連携が良好です。職員は利用者と共に食事に関してコミュニケーションをとり、献立の作成から、準備、食事、片付けに至るまで、生活の一部となって楽しみつつ取り組んでいます。法人は食事のコンテストを長年にわたって実施しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員全員が把握しており日々の生活の中でも話題に上がったり、確認しながら実践されている。	職員は理念を全員で毎朝の申し送り時に確認し、日々の暮らしの中で実践するように取り組んでいます。さらに三つの愛を謳ったモットーを具体化する努力をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事の花いっぱい運動や子供神輿などに参加し、町内会の方々から利用者様へ声をかけていただいたりと交流が図れている。更に交流が深まるよう、今後も地域の行事などに参加していきたい。	ホームの存在は地域の方々には知られ、ホームの駐車場で実施される花火大会は多くの町民が参加し、利用者とも交流の場になっています。毎年継続することで、さらに地域とのつきあいが良好になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームにて行う行事に地域の方にも参加していただける物を立案して、避難訓練に協力していただく事によって認知症の方への理解と支援の方法を伝えることが出来るよう努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的の行い話し合われた内容を周知できるように会議で意見交換をしてケアの向上に努めている。	ホームの会議場スペースのため、出席者数には限界があるのですが、町内会や民生児童委員、地域包括支援センターの職員をメンバーに定期的に開催し記録が充実しています。内容にも工夫が見られ委員の意見にも耳を傾けて、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者定期的は、に行われる市の管理者会議に参加しサービスの向上に努めている。	市や区の行政からの通達に対応して、会議の出席や報告の際に助言をいただき、ケアの向上に取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が御自分で鍵を開けて玄関先で過ごされていることが多いが、職員と一緒に過ごしさりげない見守りによって安全を確認するように努めている。身体拘束について全職員が周知しており実践している。	ホームは交通量が多い道路に面しているため、利用者の安全に配慮して玄関の施錠については十分検討し、家族の了解を得て各ユニット入口はダイヤルで開閉するようになってきました。外出希望の利用者にはその都度職員が同行して、外出を支援しています。職員は身体拘束に関して研修を重ねています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を学ぶ研修に参加したり、職員全員が周知し防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や会議にて学ぶ機会を設けており、それぞれのスタッフが考える機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り利用者様や家族様のお話を伺ってから十分な説明を行い理解していただき、書面に署名捺印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からのお話は、介護経過記録に家族様からのお話は家族対応記録に記録し職員全員が情報を共有しケアの向上に努めている。	利用者のみでなく家族との日常的な会話から、要望や意見を聞き「家族との対応記録簿」に記載して職員で共有しています。法人の合同会議においても協議され改善意見は利用者や家族に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部職員が入り会議を行い職員の意見を聞く機会を持っており、管理者は常に職員の相談などにその都度対応している。	法人の統括本部は各事業所の職員が意欲をもってケアの仕事に取り組めるように配慮し、合同会議で職員の意見や要望を聞いています。改善点は慎重に検討し、運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部職員が会議の際に各ユニットの現状を聞き取りや現状の確認しており、職員のストレスの緩和の為の食事会を開催するなど、職場環境を良好に保てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回内部研修があり、本社の職員がきつて認知症についての基本的なものや、リーダークラスによるコーチングについての勉強会をする機会を設けている。また、外部の研修にも参加しており日々のケアに生かせるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や会議により同業者との交流の機会がある。また、同法人系列内のホーム間の交流もあり行事や会議で交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や面談を時間をかけて伺い、利用者様や家族様の要望や不安なことを伺い少しでも安心できるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際にも詳細な聞き取りはおこなうも、入居されてからも利用者様からは何気ない日常の会話から要望や以前の生活についての情報を聞き取っている。また、家族様が面会に来られた際や電話などで要望などを伺い、プランや支援に生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度職員で利用者様への対応について意見交換を行い、必要と思われる支援を選択してケアにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のお話を伺ったり、家事を一緒にすることで入居者様から色々と学ばせてもらうことが多く感謝の気持ちを伝える事でお互いに支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に利用者様の最近の様子をお伝えしている。また御家族にホームからも相談することもあり共に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入る前は近隣で生活されていた利用者様の多く、幼馴染の家に遊びに行かれたりホームにお友達が来ることもあり、関係性が途切れないよう支援している。	家族のみならず、旧友との関わりも継続できるように支援しています。以前の住まいや、友人宅の訪問などは車で出掛けています。墓地が近くにあり、馴染みの方が訪ねて来ることもあります。利用者の笑顔が職員の励みとなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者様と交流を持つのが難しい方は、スタッフが積極的に交流を持つように努めている。また、行事を通じて他のユニットの方と話す機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も御家族から連絡が入ることもあり、その都度相談事やお話を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや意向を伺うようにしている。伝えることが難しい方に対しては、ご家族からも伺い把握に努めている。	職員は利用者の声を聞き、会話の困難な方には家族の話や表情などで把握に努め、思いや意向を実現するように取り組んでいます。日々、献立の希望など利用者本位に食事の提供をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際の面談の時にも出来るだけ時間を設けて生活の状況や生育暦を伺っている。また、入居されてからは家族様にセンター方式の記入をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報交換を行ったり、センター方式を活用して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や毎日のカンファレンスで職員同士の情報交換を行い、御家族や入居者様などと話したことを元に介護計画を作成している。	ユニット会議で利用者の介護計画を見直し、3ヶ月ごとに検討して短期目標に取り組んでいます。職員は記録を見たり話を聞き共通理解を得て、同じ思いでケアにあたっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの利用者様の介護経過記録を毎日記入してケアや介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医療機関や訪問美容やボランティアをお願いしており、来ていただいたり伺うことで入居者様や家族様に喜ばれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事の参加やボランティアの協力を得て、利用者様の心身の力を発揮できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外でも、利用者様や家族様が希望する医療機関や主治医の指示により、専門の医療機関を受診できるようにしている。	協力医師に月2回の往診を依頼し、利用者の健康管理に努めています。とくに意思表示の少ない利用者の体調の変化などの確に把握するように、医療連携で訪問看護を利用しています。利用者の希望で受診先は決めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と医療連携導入により、訪問看護ステーションと提携して24時間体制をとっており、その都度医療的なアドバイスを伺える環境となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に定期的に訪問し、家族様と密に連絡をとっていき、担当や看護師やソーシャルワーカーと話をし、早期退院を目指し対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院の担当医より話し合いをしたほうがいい時期を知らせしてくれ、家族様とホームの職員、管理者と担当医と訪問看護ステーションで話し合いの場を設けチームで終末期に向けて十分な話し合いをしていく。	重度化やターミナルについては指針を提示して、家族と話し合いをしています。利用者個別の対応となるので状況に応じた話し合いをしています。医療連携や往診医師の確保などチームで取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時などに備えて救命講習を受けており実践を身につける機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行っており、地域の方や家族様に協力をお願いしている。	年2回以上消防署の協力をいただいて避難訓練を実施していますが、甘んじることなく災害に向けたマニュアルの作成、日常の点検など地域の協力を依頼しつつ対策を練っています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	面会カードや利用者様一人ひとりの声かけに注意して行っており、トイレの際など他の方に気付かれないう配慮をしている。	利用者個別の対応を基本に、人格の尊重とプライバシーの配慮に気をつけています。職員は研修で接遇への学びを深め、実践に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が表現できるように2、3種類の選択肢を用意して可能な限り利用者様が自己実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に可能な限りペースを合わせ、希望に沿って過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望を受け入れ支援を行っており、訪問美容の際に利用者様の要望を伺いカットしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を伺って提供している。利用者様が食べやすいように工夫している。準備や後片付けにも参加していただいている。	献立の希望は日々の会話の中から決めており、調理や片付けなど日常的に出来る範囲の参加を促しています。食事は職員と共に和やかな雰囲気です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常時、食事量や水分量の観察をしており、記録に残している。また、禁止食品や嫌いな物は、代替で提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合わせた口腔ケアを行っており、口腔内の観察や義歯の手入れを行っており。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツやパットを使用している方が多いが、トイレで排泄できるよう、定期的なトイレのお誘いなどでトイレで排泄できるよう支援を続けている。	排泄が自立していない利用者でも、トイレで排泄できるように支援しています。個々の記録から排泄パターンを把握して参考にしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事療法（食物繊維などを多めにとっていただく）水分の提供や冷たい牛乳など個々に応じた取り組みをしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入れるように体勢を整えており、その方の希望にあわせて入浴していただいている。	週2回を目途に強制ではなく、利用者の希望を重視して入浴の支援をしています。拒否の強い方にはシャワー浴など工夫して清潔に過ごせるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースを優先して、居室での昼寝の超え替家を行ったり、職員とソファで休息が出来るよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルがあり職員はマニュアルに沿って服薬を行っている。また、利用者様一人ひとりの薬の説明書をファイルに閉じ、薬の作用や副作用を常に確認できるように取り組んでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームでの生活の中に役割を持っていただき（花の水やりや畑仕事、洗濯たたみなど）力を活かす場を提供している。その方に合わせた楽しみごと（百人一首、書道、生け花など）の支援を行い、張り合いや喜びのある日々が過ごせる様に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合わせて外出の機会を多く持つようにしている。普段のいけない遠方などでは、行事などで外出している。日常の買出しなどは利用者様と出掛けしている。	外出要求の強い利用者には、外出の機会を出来る限り多くし、日常的にホームの買い物とき同行していただくなど満足の出来る生活を組み立てています。また、屋外行事は法人の車を利用して、ユニットごとに実施しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭を管理しているが、いくら使用したか利用者様に確認していただき、お金の大切さを共に理解できるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望やお手紙やはがき等自ら書かれる方もいらっしゃるし、その都度御希望に添えるよう対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓テーブルに季節の花を飾ったり、玄関先に鉢植えや利用者様の手作りの物を飾ったりして、季節感や生活を感じられる環境づくりに努めている。	ゆったりした食堂が中心にあり、居室に閉じこもらないように個別に対応しています。浴室やトイレも混乱のないように表示に工夫があります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関での日向ぼっこや、ホール内のソファーや食卓椅子にて自由に利用者様同士で話せる空間を作っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や食器を持ってきていただくよう、家族様と利用者様と相談しながら、居心地良く過ごせるよう環境を整えている。	居室の造りは同じですが、それぞれが馴染みの家具や日用品を持ち込み、自分らしく生活しています。また、居室に閉じこもらず、居間や食堂などで交わり、家族のように暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	衣類や居室のドア等には、利用者様の名前を記入し、利用者様の能力を生かした生活が送れるように支援している。			